

平成24年度事業報告について

I 基本方針（基本理念の実現に向けて）

- ◆平成24年度は、指定管理者となっている「ふくしま県民の森」の施設等を活用しながら、東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興支援を果たすことを第一とし、各種事業に取り組んだ。
- ◆公益法人制度改革への対応では、平成24年12月に福島県に対して移行申請を行い、平成25年3月25日付けで公益財団法人として認定を受けた。

II 指定管理者としての「ふくしま県民の森」の管理運営

- ◆福島県と連携をとりながら、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質をできる限り除去し、安心安全な森林を取り戻すことを心がけるとともに、利用者の信頼を得るため、施設内の空間線量などについての定期的な測定と正確な情報の提供を行った。
- ◆県内外の様々な組織、機関等と連携し、「ふくしま県民の森」の利用者増を図るための事業を行った。
- ◆「ふくしま県民の森」利用者に対し、満足度を高めるよう、施設の整備を行うとともに、プログラムや情報の提供を行った。

1 県委託料による施設・緑地管理

老朽化した施設等への対応

- ◆浄化槽モーター修繕、サウナ室修繕、事務所入り口扉の修繕、温泉浴槽排水口修繕、コテージ出口ゲート歩道部修繕、水源量水器修繕、トイレセンサー部補修ほか

2 オートキャンプ場利用料金による施設管理

施設の高規格化、老朽化等への対応

- ◆ビジターセンター：廊下壁面・階段手すり等の補修、温泉濾過器の内部洗浄・修繕、温泉脱衣所の修繕、ショップ・フロントテーブルの修繕、ロビーテーブルの修繕、サウナ機器修繕ほか
- ◆コテージ：リビングテーブルの修繕、コテージ・バリアフリー棟のスロープ修繕ほか
- ◆常設トレーラー：エアコン部カバー・スイッチ等修繕、室内換気装置修繕、ソファカバー修繕、照明器具修繕、入り口扉修繕、窓用ブラインド修繕、窓部修繕ほか
- ◆テントサイト：野外テーブル・イス修繕、サテライト水道施設修繕ほか

原発事故の影響等による対応

- ◆利用各施設における放射線量の定期測定と一般への公表

3 フォレスト・エコ・ライフ推進の事業（目標値は財団中長期計画による）

(1) 森林学習施設区域の運営

- ◆震災直後に比べ、本区域への学校等による森林学習の利用は増加したが、震災時の地震の影響から飲料水等の取水量が減少したため、ユースキャンプ場の炊事棟や野外トイレの利用制限を行った。震災前には多くの利用がなされたユースキャンプ場の利用は、野外活動の制約や水不足による施設利用上の制限により、利用者の増加は見込めなかった。
- ◆前年に比べ落ち着きを取り戻したこともあり、県内の学校利用は若干数増加した。
- ◆冬期の積雪期では施設内の空間線量が低下し、幼稚園・学校利用が増加した。

◆森林学習施設区域全体の利用者 単位：人

年度	目標値（人）	実績（人）	達成率（％）
平成22年度	174,400	158,433	90.8%
平成23年度	176,200	8,352	4.7%
平成24年度	178,000	6,789	3.8%

◆森林館の利用者 単位：人

年度	目標値（人）	実績（人）	達成度（％）
平成22年度	12,180	12,792	105.0%
平成23年度	12,290	2,308	18.8%
平成24年度	12,410	1,624	13.1%

◆学校団体利用者数 単位：人

年度	目標値（人）	実績（人）	達成度（％）
平成22年度	7,780	10,353	133.1%
平成23年度	7,930	2,534	32.0%
平成24年度	8,080	2,880	35.6%

(2) オートキャンプ場の運営

- ◆ 原発事故の影響は平成24年度も継続しており、宿泊利用、日帰り利用ともに、トップシーズンであるゴールデンウィーク期間中と夏休み期間中の利用は、震災前の平成22年度比の約50%と大幅減となったが、原発事故直後の平成23年度に比較すると確実に利用者は増加した。また、11月～2月の4ヶ月では、当年を含めた過去4年間の中でも最も利用者の多い年となった。
- ◆ 年間の施設利用者数では、震災直前の平成22年度比約70%、平成23年度(避難者を除く)比約160%となった。これは、利用者の放射能に関する理解が進み、県内の活動に落ち着きが出てきたことや利用者増への取り組みの結果と思われる。
- ◆ 日帰り温泉利用については、健康面・精神面での温泉の効用などにより、原発事故以前の利用状況にほぼ回復した。
- ◆ 財団主催のイベントプログラムへの参加者は、野外活動への回帰や子ども利用が増加傾向にあることから、前年比166%と増加した。
- ◆ 風評被害にかかる営業損失については、東京電力より損害賠償金として受け入れた。

◆ オートキャンプ場の利用収入(実績)

オートキャンプ場利用収入については、原発事故による避難所収入があった平成23年度に対し、総収入は下回ったが、一般利用収入は65%ほど上回った。また、平成22年度比では約80%となった。

	オートキャンプ場 利用収入 (日帰り温泉収入含む 単位:千円)	備考
平成22年度	71,029	
平成23年度	76,751	内 一般利用収入: 34,659 避難所収入: 42,092
平成24年度	57,092	

◆ オートキャンプ場の利用者(大人+小人) 単位:人

年度	目標値(人)	実績(人)	達成度(%)
平成22年度	32,650	29,241	89.6%
平成23年度	32,830	13,556	41.3%
平成24年度	33,020	21,806	66.0%

◆温泉施設の利用者 単位:人

年度	目標値 (人)	実績 (人)	達成度 (%)
平成22年度	14,330	11,683	81.5%
平成23年度	14,400	9,760	67.8%
平成24年度	14,470	13,299	91.9%

◆イベント・プログラムの参加者 単位:人

年度	実績 (人)	対前年度比 (%)
平成22年度	6,643	91.6%
平成23年度	1,698	25.6%
平成24年度	3,014	177.5%

III 受託事業の実施

1 もりの案内人養成講座運營業務

◇委託者:福島県(農林水産部森林保全課)

◇実施期間:平成24年12月18日～平成25年3月28日

◇実施内容:

- ◆福島県が募集し、選定した受講生25名を対象に、5期15日間の講座を開催、運営した。
- ◆第1期:平成25年1月18日～20日
- ◆第2期:平成25年2月1日～3日
- ◆第3期:平成25年2月15日～17日
- ◆第4期:平成25年3月1日～3日
- ◆第5期:平成25年3月15日～17日

財団スタッフは、講座運営のほか5教科の講師を勤めた。

2 森林ボランティアサポートセンター開設業務

◇委託者:福島県(農林水産部森林保全課)

◇実施期間:平成24年4月1日～平成25年3月31日

◇実施内容:

- ◆学校や幼稚園などの教育機関や子ども会などの団体からの依頼を受け、NPO 法人福島県もりの案内人の会などへの講師派遣要請を行った。昨年度に比べ、森林内での活動を希望する事例が増加した。
- ◆震災後も活動を続けている森林ボランティア団体などの活動状況を取材し、森林づくり情報誌(森ボラ新聞)を発行した。
- ◆ホームページを運用し、情報の提供を行った。
- ◆電話、来訪者、fax、メールによる各種相談対応や森林ボランティア活動に必要とされる機材(ヘルメットなど)の貸出を行った。

3 鳥獣保護センター管理受託事業

◇委託者:福島県(生活環境部自然保護課)

◇実施期間:平成24年4月1日～平成25年3月31日

◇実施内容:野生鳥獣傷病鳥獣の救護活動実績

単位：頭・羽

年度	当該年度末飼育数	当該年度 収容数	当該年度 野生復帰数	当該年度 死亡数
平成22年度	102	270	83	196
平成23年度	87	238	77	176
平成24年度	88	240	84	155

4 福島県の森林文化公開体験事業

◇委託者：福島県（農林水産部森林計画課）

◇実施期間：平成24年5月30日～11月30日

◇実施内容：

- ◆福島県奥会津（今回は三島町中心）に存在する森林文化を、フォレストパークあだたららびジターセンター内で展示および体験プログラムを実施した。（7月下旬～8月末）
- ◆手配したバスを利用し、三島町への森林文化現地体験ツアーを実施した（10月20日）

5 森林ボランティアリーダー育成事業

◇委託者：福島県（農林水産部森林保全課）

◇実施期間：平成24年10月22日（月）～11月25日（日）

◇実施内容：

- ◆森林整備に関する知識と技術・森林整備の安全確保に関する知識を備えた森林整備ボランティアのリーダーを養成する目的の講座。福島県が募集した参加者10名を対象。
- ◆救急救命法の講習（10月22日 フォレストパークあだたらにて実施）
- ◆林業機械の講習（10月31日～11月2日 福島県林業研究センターにて実施）
- ◆森林づくり講習会（11月24日～25日 フォレストパークあだたらにて実施）

6 福島県緊急雇用創出基金事業

◇委託者：福島県（農林水産部森林保全課）

- ◆「ふくしま県民の森活動支援業務」として受託。

◇実施期間：平成24年6月7日～12月28日

◇実施内容：

- ◆期間中、2人を新規に120日間雇用し、ふくしま県民の森の業務区域内の放射線量を測定し、県民等に対してより詳細な放射線量や安心安全に関する情報を提供など行った。

7 企業の社会貢献事業

◇委託者:イオングループ<イオンリテール(株)、マックスバリュ南東北(株)、イオンスーパーセンター(株)>

◇実施期間:平成24年9月25日～25年3月31日

◇実施内容:

- ◆期間中、ふくしま県民の森の敷地内において、森林活動が行いやすくなるよう、林内の下草刈り、除伐等を行った。

IV 自主事業の実施

1 ふくしま復興支援事業

(1) ふくしま県民の森フォレストパークあだたら 平成24年度 ふくしま復興支援割引

- ◆年間を通してのオートキャンプ場利用者に対する財団独自の割引
- ◆どなたでも割引(10%割引)、団体割引(30%割引)、学校教育利用割引(50%割引)

(2) 仮設住宅避難者への温泉無料提供

- ◆大玉村にある仮設住宅避難者を対象とした、フォレストパークあだたら温泉の提供。毎月1回実施

(3) 復興支援事業・イベントなどの開催、共催

- ◆酒粕無償配布(4月18日実施、兵庫県太陽酒造より寄贈された酒粕を、フォレストパークあだたらロビーにて、仮設住宅避難者へ提供。大玉村社会福祉協議会との共催)
- ◆ライダーズナビ(財団法人福島県観光物産交流協会主催)事業への協力とライダーズ・ピット、ライダーズ・イン登録。県内の交流人口増加を目的。
- ◆アウトライダー公式ミーティング in フォレストパークあだたら 共催・受け入れ(9/15～16の2日間、オートキャンプ場にて開催。約400人参加)

(4) ふくしまっ子支援事業 受け入れ(7月～1月、33件、367名利用)

- ◆福島県教育庁の事業。福島県内の満1才以上の幼児、小・中学生 及び 引率者・保護者等(東日本大震災及び原子力発電所事故の影響により県外に避難している県内に在住していた方を含む)が対象。

(5) キッズスペース開設、提供(通年)

- ◆福島県屋内遊び場確保事業より福島県安心子ども基金特別対策事業補助金を得て、ビクターセンター・レクチャーホールの遊具を追加、無償開放

(6) 子どもの外遊び支援事業 受け入れ(12月～3月、6件、273名利用)

- ◆NPO法人子どもの森ネットワークへの協力

2 環境教育事業

(1) 災害対応キャンプ事業

◇主催: (財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

◇実施場所: ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら

◇実施内容:

- ◆もしもに備えるアウトドア×災害救助活動展(8月4日・5日 オートキャンプ場にて開催)
- ◆災害対応キャンプ(11月11日 オートキャンプ場にて開催 大玉村教育委員会と共催)
- ◆災害対応キャンプ 3.10(3月10日 オートキャンプ場にて開催)

(2) やっぱり森林(もり)は楽しいね! 事業

◇実施日: 平成24年9月29日(土)～30日(日)

◇実施場所: ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら

◇実施内容:

- ◆森林の整備体験や森林の音楽会などを通じて、東日本大震災や原発事故からの復興に向けた「人と人」、「森林と人」との交流を深めることを目的とした事業
- ◆当施設を会場とし、「樹木解体ショー」、「森林の中の交流会(アウトドア料理と森林コンサート)」など9アイテムのプログラムを2日間にわたり開催した。福島県内各地より1日目は105名、2日目は95名、併せて200名の参加者があった。

(3) 福島県における森林ボランティア活動研修会

◇主催: (財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

◇実施日: 平成24年11月7日(土)・8日(日)

◇実施場所: ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら

◇実施内容:

- ◆放射能による森林汚染に伴う森林ボランティア活動の再開に資するため、放射性物質や森林除染についての基礎知識をはじめ、幼少期における野外活動の意義などについて、外部講師を招聘し研修を行った。参加者 30 名。
- ◆森林ボランティア活動に関わる意見交換やボランティア活動参加者同士の交流も行った。

(4) あだたら生物クラブ

◇主催: NPOわかば自然楽校、福島市小鳥の森、(財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

◇実施日: 平成24年10月27日(土)

◇実施場所: ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら

◇実施内容:

- ◆施設内に点在する広葉樹林(里山の環境)を、植物調査を通して調べるための研修を行った。
- ◆参加者 11 名。講師は、日本 EIMY 研究所主任研究員の星昇さん。

(5) 講師派遣事業

◇福島大学「キャリアモデル学習」事業

- ◆主催:福島大学
- ◆日程:平成24年5月24日(木)
- ◆場所:福島大学
- ◆講師:利用促進担当 主任主査 佐藤重敏

◇第4回環境活動事例発表会

- ◆主催: Wiz 専門学校 国際情報工科大学校・認定 NPO 法人 自然環境復元協会
- ◆日程:平成25年2月23日(土)
- ◆場所:専門学校 Wiz国際情報工科大学校(郡山市)
- ◆発表者:事務局長 弦間一郎

◇福島県教育旅行誘致セミナー事例発表

- ◆主催:(財)福島県観光交流物産協会
- ◆日程:平成25年2月28日(木)
- ◆場所:ホテル 華の湯(郡山市磐梯熱海)
- ◆発表者:事務局長 弦間一郎

(6) 広報活動

- ◆テレビ、ラジオ、情報誌、ネットなど47件の取材、掲載
- ◆当財団ホームページにおいて、あだたら日記をはじめとする情報提供

3 調査・研究事業

自然環境基礎調査事業

- ◆福島大学共生システム理工学類 塘研究室による人工池を利用した生態系調査研究
- ◆福島大学共生システム理工学類研究生による研究成果発表会 開催 (12月18日)

4 FEL制度事業

- ◆原発事故の影響により震災前に比べ会員の更新、新規登録ともに減少しているが、平成23年度に比較し約40%の増加が見られた。

5 物品販売・貸付・カフェ事業

- ◆オートキャンプ場利用者の増加や福島県内の状況が好転する兆しもあり、平成23年度に比較し物品の販売・貸付、カフェでの売り上げとも増加となった。

事業収入

- ◆単位:千円(平成22年度分は、平成23・24年度との比較のため税込み処理済み)

	ショップ売上(物品販売) 千円	カフェ売上 千円	物品貸付(レンタル) 千円
平成22年度	11,121	2,269	2,098
平成23年度	6,785	884	1,078
平成24年度	9,643	2,133	1,660

6 地域振興と社会貢献事業

地域振興

- ◆ライダーズナビ(福島県観光交流物産協会)事業への参画と県内観光地の紹介
- ◆県内授産施設産品の販売
- ◆地元産品の販売、地元食材等の紹介、活用

社会貢献(自主事業としての復興支援を除く)

- ◆福島県立二本松工業高校から4名のインターンシップ受け入れ(10月18日～19日)
- ◆福島県立大笹生養護学校から1名の教員研修受け入れ(7月31日～8月1日)

7 公益法人改革

- ◆10月の第3回理事会、第2回評議員会にて提出書類承認
- ◆12月、電子申請完了
- ◆3月、移行認定(福島県知事)